
恋愛講座

フヌケ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋愛講座

【Zマーク】

Z89931

【作者名】

フヌケ

【あらすじ】

- 純愛はあるの？
- 浮気はいけないこと？
- 本命って誰？
- そいつはキープ？
- 失恋からの立ち直り方法つて？

漆蘭子は恋愛に悩まされる日々。

どうしたら気持ちが戻るの?

それとも

云えひやいけないの?

別れたい。

恋愛の終わりは、いつも同じような気がする。

あ、この場面見たことある。なんて、神妙な表情の相手をよそに、とても冷静な自分がいる。けれど、去っていく相手の背中を見つめると、冷めきった現実がじわじわと私の体を包んでいく。

フランだ。
また。

いや、私も最初からそんなに好きじゃなかった。フランで逆にしつきりした。大きな枷がやっと外れた。

ほら、また強がる。

重たい鎧に身を隠してしまえば、冷めた現実に体を引き裂かれる心配もない。

さあ、鎧被りつ。どんな刃が切り付けてきても、大丈夫なように。

第一志望の大学に落ち、適当に願書を出した女子大に通うことになつた四月は、ドキドキもワクワクもない。

周りから、安っぽい励ましをもらい、漆蘭子は大学一年になつた。

第一志望が滑った理由は分かっている。大学受験本場前に、突然訪れた別れのせいだ。

別れたい。

まるで、何かの詩の一節を読んでもらったかのようだった。

この詩の作者の心情を述べよ、と聞かれたら答えはすぐに書ける。

お前といふと疲れる。

癒されない。

乐しくない。

他に好きな子ができた。

思い当たる理由がありすぎて笑える。

恋愛は、互いを思いやることが大事。誰もが知っていること。多分、人より少し負けず嫌いで、社交的でない漆には、難しそうなんだ。

感情を表に出さない漆の性格上、思いは伝わりにくく、相手には物足りないのだろう。

もつと素直に、感情的に、むしろ、わがままになれたら、結末は違っていたかもしれない。考えても後の祭りだが。

「だからあ、次いこつて！！」

傷ついた心に遠慮なく入つてくるのは、高校から一緒に山河廻だ。長い金髪のストレートヘアがよく似合つるのは、きっと彼女が、何に対してもストレートにぶつかつてくるからだろう。

悩んだり、迷つたりする人生とは無縁だ。

「次に行ける活力がありません」

臆病な性格のせいなのか、長かつたオリエンテーションのせいなのか、体が重たい。

「栄養ドリンクあるよ

いつも何故、山河の鞄はダルマみたいに膨れているのか気になつていたが、そういうものが常備されていたのか…。

「いらないよ

「何で？！」「レディヤル気になれるって」

山河は小声のつもりかもしれないが、だだ漏れだ。

「いちが恥ずかしくなつてくる。

「なら尚更」

「でもさあ…あんたも顔は美人なんだから、もうちょっと甘え上手になんなさいよ。勿体ないよ」

山河は付け加える。

「男はね、彼女が何でも完璧にこなしちゃうと、気が休まらないの。今の男が求めてるのはさ、癒しとか安らぎなんだから」

どうせ程遠い性格ですよ。思わず、机に顔を伏せた漆。

「アレがほしい！とか、手伝つてえ！とか、助けてえ！とか言わないと」

山河が言つと、全部工口へ聞こえるのは何故だろ？。

「どーせあたしは、そんな台詞言えませんよ」

鎧を装備する。

「また出たつ！漆ちゃんお得意のどーせ！…じゃ一生、そつやつて分厚い鎧の中に隠れてなさい！そこから、幸せが通り過ぎていくのを見てればいいわ！」

残念な性格だと、漆自身も分かっている。けれど、羽目を外す方法が分からぬ。鎧は、周りが思つてゐる以上に重たいのだ。

幸せは通り過ぎていくかもしぬないが、ここに入つていれば、傷つくこともはない。

しつかり者。

冷静沈着。

完璧主義者。

イメージばかりが先行し、周りが予想以上に期待してきた。今まで付き合つた男たちだつて、期待していたに決まつてゐる。

頭良さそう。

料理上手そう。

部屋が綺麗そう。

頼れそう。

勝手な思考を押し付けてきた。けれど、自分もその期待に応えようとしていた。

失望されたくなかったんだ。

「ほら、漆が見習わなきやいけない女が来たよつ」

山河が指を指す。

漆がため息をつく。

「おつはよー！どうしたの？マイナスオーラに包まれてるけど」

「ウソツッ！」慌てて体を払い出す山河。

「まぢか、漆に新しい男紹介してくんない？失恋からの脱出方法がなんなか、あんたからも言つてやってよ」

「SEX？」

ぶつ飛び過ぎだ。と、山河が呟いた。

「いーじやない！四月は出会いの季節だし、いい男見つけて、見返

したら？」

「あのね、あたしらはあんたみたいに男を衝動買ははしたくないの。
好青年を求めてるわけ」

好青年なんて、高校から煙草ふかしている山河には、最も似合わ
ない言葉だと思つ。

「好青年ねえ……あ、あたしの彼氏に頼んでみようか？」

彼氏いたんだ…。

「いい人だから、きっといい友達連れて来てくれるよ」

「どーセヤラせてくんないとポイ捨てするような連中でしょ？」

山河、声がでかい！

「そんなんじやないから！ 迪はあたしの評価をもつと上げて
努力してみる。山河が目も合わせず答えた。

一糸乱れぬ巻いた髪、完璧な化粧、男たちの視線を釘づけにする
のは、道田まどか。大学の入学式で知り合つた女だ。

付き合つた男は数知れず、メール一通で迎えに来る男や、笑顔一
つで「ご飯をおごしてくれる男などなど、イケメンからパシリ専門ま
で、彼女の交際範囲は広い。

女王バチの彼女の周りには、男が吸い寄せられるように集まり、
魅了される。時に甘く、時に辛く、道田の味を一度味わってしまつ
たら抜け出せない。

中毒になる。

「あんな風には絶対になれない」

「大丈夫よ。誰もなれるなんて思つてないから。ただ、ああやつて

生きている奴もいるってことだけは忘れないで
山河が苦笑した。つられて漆も。

どんな人生だったのだろう。
どうしたらあんな人生を歩めたのだろう。
何が違うのだろう。

道田にあつて、漆にないもの。

「フエロモンじゃない?」

山河の答えに、頭を叩かれたようだった。

1・出会いの回

行きたくない大学に入り、目標もなく過ぐす毎日。そもそも、自分に目標などあつたのだろうかと、漆はぼんやりと考える。

もし、あの時別れていなければ
人生は、いい方向に向かっていたのだろうか。

それにしても、自分をこんなに駄目にしてしまう失恋には驚かされる。いや、周りはもつと上手くやっているのだろう。

別れたって次がある。
いつまでも、フられたことを引きずるのは、時代遅れなのだろうか。

今、手元に何もなくなつた自分が、酷く薄く見えるのは何故だろう。

か。

「考えすぎじゃ、ボケ」

山河は漆の頭をノートで叩いた。

「あのねえ、別に婚約破棄されたわけじゃあるまいし、ましてや高校生の恋愛でしょ？ いちいすけ凹んでたら、地底まで進んじゃうわよ？」

「こつそのこと、地底で暮らしたい。」

「いい、漆つ！」

肩を強く握り、熱血教師のような眼差しの山河は恐れしげ。

「失恋で凹み続けるなんて損だよつ！そつやつてる内に周りはどん
どん幸せの花を咲かせるのつ！だつたらあんたも、クヨクヨしてな
いで早く新しい種を見つけて育てなきやつ」

確かに、自分の土にはまだ、萎れて干からびた花が根を張つてい
る。

早く抜かなければ、不幸の根は、張り巡らされる。

分かつていてるのに、土の上にしゃがみ込んだままでいるのは、こ
んな思いを一度としたくはないからだ。

たかが高校生の恋愛による失恋で、これだけ打ちのめされるんだ
……。

今度、自分から本気で誰かを好きになつて、そして駄目だつたら
……。

地底に住む自信がある。

「ああいたいた！」

失恋とか、フラれるとは無縁の道田が満面の笑みでやつて來た。
ぶん殴りたい衝動に駆られる。

「ねえ、合コンしない？彼に連絡したら、いよいよつて返事きたから
さあーどう？

「あたしはいいけど……」

「機嫌を伺うよつな二人の視線が、漆に突き刺さる。

「…何？！いいよつ！行くよつーー！」

合コンという響きは、あまり好きじやない。彼氏を狩りに来まし
たと、アピールしているみたいだから。

それでも、頭のてっぺんから、靴の先まで完璧な山河と道田を見たら、自分もネックレスの一つでも付けてくればよかつたと思った。

「引き立て役だな…」

無意識に呟く漆。

「なあに言つてんの?」

山河が鋭く睨んだ。

「あんたの最大の武器は、何にもしなくても綺麗な容姿でしょつ！着飾んないと引き立たない奴らにとつてみれば、あんたの方がよっぽどムカつくわよ」

「山ちゃんも、ムカついてんの?」

「あたしのビニが着飾つてんのよつー！」

その盛つた頭。

「行くわよ、漆つー種を見つけに」

「…おひつ」

さあ、荒れ果てた大地に、花を咲かせようじゃないか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8993i/>

恋愛講座

2010年12月13日18時12分発行